



Subaru

昴 男声合唱団

ニュース No.219 '10.01.29

3曲をみっちりレッスン

... 1月28日(金) ...



- 今日は、奥村さんの体操、檀先生のヴォイストレーニングと本並先生および檀先生の指揮、静さんのピアノで10周年曲のうち3曲に絞ってみっちりレッスンしました。団員出席は38名(93%)。
- レッスン曲と一口メモ
「ねがい」；目で指揮、耳でピアノで、テンポ感をもって。他のパートの音を聞きあって、ハーモニーを大事に。
音色をよくすることを心がける。
「シルクロード」；4 ソロを消さないよう、ハミングはやさしく。昴のステージのソロはマイクなしの予定。
5 「いにしえびとが」：出だしをそろえて(アインザッツ)やさしく。 35～38 ノンプレスで。
48 「アー」：やさしく。「ドナリッシモ」にならないこと。 59 piupp：ひびきある pp で。
「鶴」；28～36 T1A と Bs は新譜で。(T1B、T2、Br はもとの譜どおり)
- 1月22日(金)の**紫金草**での「**無言館**」レッスンは、昴団員の参加も含め45名の盛況でした。混声でレッスンする貴重な機会(良い歌だなあと実感できます)なので、昴団員の積極参加をお勧めします。
- 1月26日(火)の特別レッスン「**無言館**」は団員出席は28名で熱心にレッスンしました。(編集子が欠席したため記事がなくてすみません)
- 「**無言館**」の**ユニフォーム**は白ワイシャツ、黒ズボン、黒蝶ネクタイに決まりました。
- **10周年チケット**；入金は500枚です(今の時期なら半分は入金してほしい；岡邑さん)。チケットのやりとりは、原則として団員個人の間でしていただくのが原則ですが、どうしても手元に残る方は、岡邑さんに早めに返却してください。
- 1月31日(日)の定例レッスンは、昴の**全曲を録音**します。
- **調査票**が配られました。(紫金草物語の参加。各曲のマスターの度合い。打上げの参加。)

T2 寺脇さんに「埴生の宿」について調べてもらいました。

埴生の宿

世の中に我が家ほど楽しいところはないと歌う世界的な名歌曲。「Home, Sweet Home」は歌劇『ミラノの乙女;クラリ』の導入部のアリアが原曲である。日本では「埴生の宿」(土で作った粗末な家)という歌詞で明治22年(1889)刊の「中等唱歌集」に出ており、広く愛唱。

作詞者ジョン・ハワード・ペイン(John Howard Payne/1791-1852)はニューヨークに生まれ、ロンドンに住んで俳優および劇作家として成功したが、放浪癖のため落ちぶれて北アフリカのチュニスで死んだ。

作曲者ヘンリー・ビショップ(Henry Rowley Bishop/1786-1855)はロンドンの人で、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学の教授を歴任し、指揮者としても名のあった音楽博士。この2人が1823年に作った歌劇が上記「クラリ(CLARI; MAID OF MILAN)」である。

日本語作詞者の里見 義(さとみ ただし/1824-1886)は、文政7(1824)年、今の福岡県に生まれた。明治2(1869)年豊津に育徳館(現在の豊津高校)が設立され、翌年和学の教授として教鞭をとり、学校が目指した近代的教育の一役を担った。中級の武士だった里見は五十をだいぶ過ぎてから上京、カナダ人の宣教師宅に寄宿。明治14(1881)年文部省の音楽取調掛(現在の東京藝術大学音楽部)に採用、唱歌の歌詞を作詞する適任者として推薦され、『埴生の宿』、『庭の千草(夏の最後のバラ)』、『才女(アニーローリー)』などの訳詩を手がけた。

Home, sweet home

楽しき我が家 (三宅忠明：訳)

'Mid pleasures and palaces though we may roam,
Be it ever so humble, there's no place like home.
A charm from the skies seems to hallow us there,
Which, seek thro' the world, is ne'er met with elsewhere.

快樂と宮殿の中をさまよっても
貧しいながら、我が家にまさるところはない
空の魅力が我らを清めてくれるように思える
世界中探しても他所では絶対に見つからない

Home, home, sweet, sweet home,
There's no place like home,
There's no place like home.

我が家、我が家、楽しい我が家
我が家にまさる場所はない
我が家にまさる場所はない

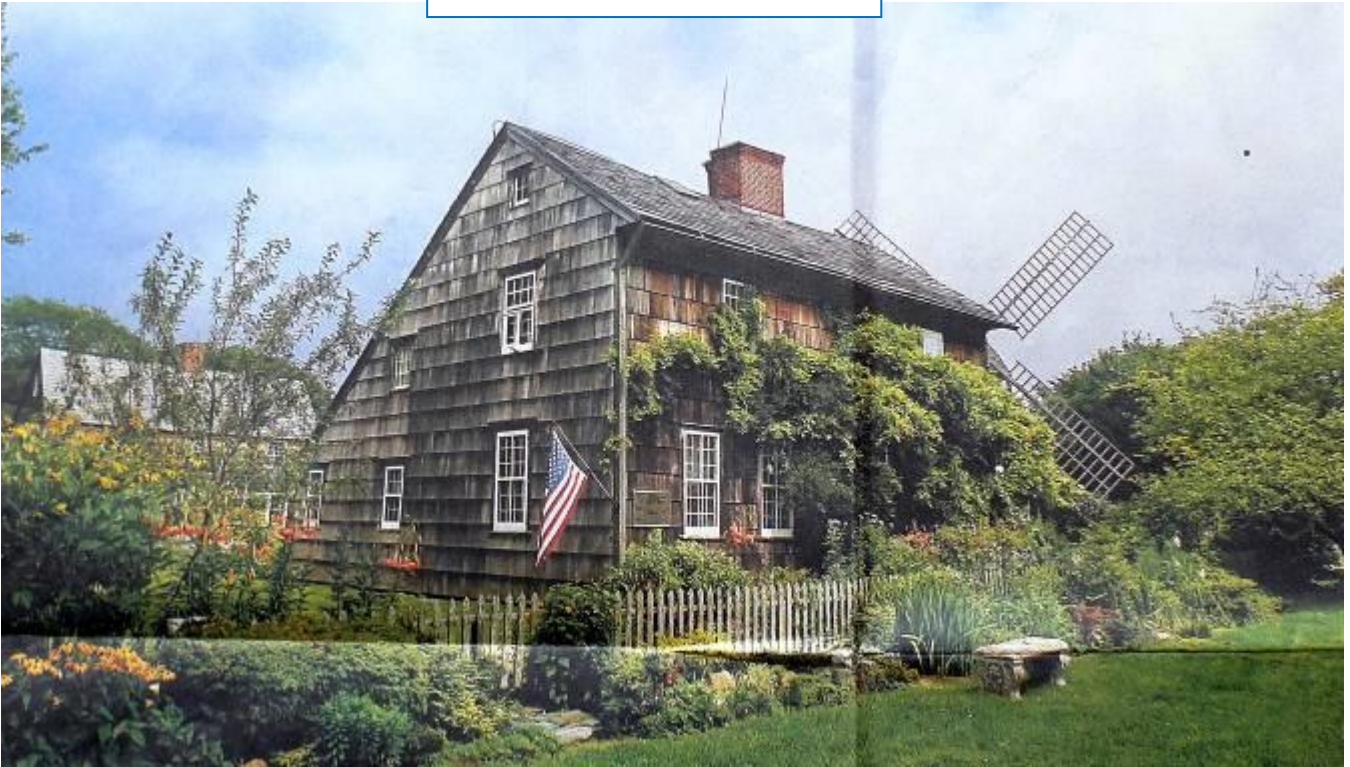
An exile from home splendour dazzles in vain
Oh, give me my lowly thatch'd cottage again!
The birds singing gaily that came at my call
Give me them with the peace of mind dearer than all.

故郷から追放された身にはどんな輝きも虚しい
おお、藁葺きの粗末な我が家に帰してくれ!
呼べば答えて小鳥たちが楽しく歌う
何よりもいとしいあの歌を聞かせ、心を静めてくれ

Home, home, sweet, sweet home,
There's no place like home,
There's no place like home.

我が家、我が家、楽しい我が家
我が家にまさる場所はない
我が家にまさる場所はない

「埴生の宿」あれこれ



ホーム・スイート・ホーム記念館

ニューヨーク州ロングアイランド： 作詞者のジョン・ハワード・ペインの故郷：写真は朝日新聞
2009.8.29「be」から転載（長屋敏郎さん提供）

朝日新聞 2009.8.29「be」から抜粋

作詞者のペインは、14歳で戯評を書き、16歳で俳優になり、ロンドンに渡って舞台に立ち、戯曲を書いた。フランケンシュタインを書いた英国の女性作家シェリーに恋したが見向きもされず、生涯結婚しなかった。晩年は米国に戻って、先住民インディアンの人権を擁護し、最後はチェニス領事となり、アフリカで孤独に亡くなった。「家庭をうたう家庭を持たない詩人」と言われた。

歌は世界中で愛された。南北戦争のさいには、川をはさんだ南北両軍の兵士がこの歌を歌ったことから休戦となり、兵士はコーヒーやタバコを交換した。ビルマの竖琴のようなことが実際の戦場で起きた。

映画『ビルマの竖琴』での感動的シーン

映画『ビルマの竖琴』では、この「埴生の宿」が感動的なシーンの演出に一役買っている。

タイの国境付近の村で、日本の小部隊が何千というイギリス軍に囲まれてしまう。その時、日本兵が『埴生の宿』を日本語で歌うと、それを聴いたイギリス兵が英語で合唱した。

一つの歌で心を通い合わせた両軍は、戦闘を止めた。「歌は国境を越える」。そんな言葉の意味を実感させてくれる名シーンだ。

ちなみに、日本語のタイトルにある「埴生(はにゆう)」とは、「粘土性の土の雅語的表現」で、「埴生の宿」とは「土で塗った、みすばらしい家」のこと

(インターネット「世界の民謡童謡」より転載)